

多世帯居住に関する研究開発

【代表者】

河崎由美子 積水ハウス株式会社 総合住宅研究所 住生活研究所長

【共同研究者】

王飛雪 大阪市立大学 生活科学研究科 特任助教

小伊藤亜希子 大阪市立大学 生活科学研究科 教授

【研究概要（申請書より抜粋）】

戦後の日本では、核家族化が進行し、さらに近年は単身世帯や夫婦のみ世帯など少人数世帯が増加し、従来型の三世帯居住世帯はますます減少傾向にある。しかし、今後急速に押し寄せる少子高齢の課題に直面する中、支え合いやコミュニケーションを伴う多様な形態での多世帯居住の存在価値がクローズアップしてくると予想される。

本研究は、介護、子育て等の相互ケア、生活の共同化の視点から、「多世帯居住の暮らし」とその経年変化に注目する、現代における多様な多世帯居住の動向とニーズを把握し、ライフスタイル別クラスターを設定した上で、対応する住まい方提案を行うことを目的とする。

2019年度は、訪問調査やインタビューなどの定性調査を実施し、近居の世帯のクラスター分類を行う。